

指定管理施設・出資法人調査特別委員会 現地調査活動状況

1 日時 令和5年7月31日

2 出席委員

委員長 望月 勝

副委員長 臼井 友基

委員 藤本 好彦 石原 政信 中村 正仁 伊藤 毅

古屋 雅夫 名取 泰 福井 太一 久嶋 成美

3 欠席委員 なし

4 調査先及び調査内容

(1) 山梨県立産業展示交流館アイメッセ山梨【指定管理施設】、(公財)やまなし産業支援機構【出資法人】

○調査内容

問) 民間のコンサルタント会社と同じような事業を展開されているところもあるかと思うが、産業支援機構と民間の方々との違いは何か。あるいは何か意識を持っている部分というのがあるのか。

答) 私どもで行っている事業には、民間も行っている事業等もあり、民業圧迫にはならないように事業は実施しているが、基本的に事業支援については無料という形で実施をしている。

事業を実施するに当たって、国からの受託事業、県からの受託事業、私どもの自主事業があるが、それぞれ国と連携、県と連携、それから商工支援機関、民間の金融機関の支援機関と連携をしながら事業を進めているので、幅広い支援ができるというのが民間と比べての特徴となっている。

問) コロナ禍元年からこの3年間で、中小企業の相談はどのような内容が一番多かったのか。

答) 直近3か年、コロナという中で、企業者の相談は、事業再構築補助金であったり、コロナ助成金等に関する書き方、申請の仕方というようなものが目についた。あとは、資金繰り等の相談も見受けられた。

問) 県が今一番重点を置いてやっているのがDXの推進であるが、特に中小企業でおくれている業種はどのような業種が多いのか。

答) DX推進事業を行っているが、製造業について若干おくれがあるという感じがある。

問) 最後に、一番大事なのは事業承継、後継ぎの課題であり、人口が減ってきている中で中小企業は大変苦しんでいるところであるが、機構の大きい課題等を一つか二つと、支援の具体的な内容は何か。

答) 事業承継であるが、社会的な問題になっている。私どものほうにも年間314社からの相談が昨年度あった。内容は、半分が親族外承継の相談で、最近多くなっているのはM&Aの相談で、これが半分強となっている。

県内の事業者の方々が親族内での承継を試みるが、大きな課題にはなっている。第三者による承継を求めようという動きが最近だんだんふえており、中小企業、小規模企業においてもM&Aが近年ふえている。

問) 割賦販売の金額がふえていたのだが、件数的にもふえる傾向にあるのか。

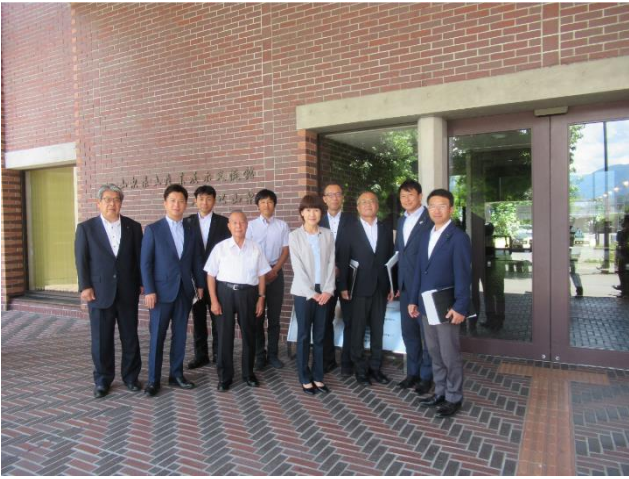
答) コロナ禍において、設備投資意欲が大分減退していて、昨年度、若干コロナが落ち着いた中で、産業支援機構で各種営業活動を行った。こうした中、資金繰り等に関したところで、金融機関の枠は運転資金のために取っておくという企業が多く、金融機関の枠を使わない私どもの設備貸与事業への申込みがあり、令和2年度、3年度に比べ、申込みがふえたというのが実情である。

問) 産業支援機構の人材育成・確保について、県でもリスクリングをしっかりと企業に対してやっつけようという中で、新たに中小企業等が進めるリスクリングについての支援はあるのか。

答) 山梨県プロフェッショナル人材戦略拠点事業を実施しているが、企業で求める人材というものが業種・業態によりばらつきがあり、ヒアリングを重ねていく中で、コンサルタント機能も発揮しながら、御相談企業に応じた内容で、御社にはこういう人材が必要ではなかろうかという御提案をさせてもらいながら、企業に人材の紹介をするお手伝いをしている。他の拠点事業と連携した上での包括的な御提案という形を進めている。

問) 起業家育成セミナー開催事業は大変申込みが多いという話を聞いているが、県内でどのくらいの申込みがあるか。

答) 起業家養成セミナーを実施しており、今年については10月に1か月間、毎週土曜日に開催する。申込みの状況は、定員30名で毎年30名以上の申込みがあり、断りをする件数も出ているところである。各市町村で実施をしているが、どのくらいの申込みがあるかというのは、全体の数字は把握していないが、ほぼいっぱいになるという話は聞いている。



※アイメッセ山梨4階会議室において説明、質疑を行った後、現地視察を行った。

(2) 山梨県立美術館【指定管理施設】

○調査内容

問) 去る7月26日に実施した部局審査における山梨県立美術館、山梨県立文学館及び山梨県芸術の森公園の審査の際、臼井委員から発言があった山梨県芸術の森公園の警備体制について、執行部から答弁を訂正したい旨の申し出があったので、これを受けることとする。

答) 去る7月26日に開催された、部局審査において、臼井委員から、芸術の森公園の警備体制について質問をされた際に、休館日は警備員による夜間の巡回がない旨を答弁したが、正しくは休館日についても、開館時と同様、午後6時から翌朝9時までの間に4回の巡回警備を行っている。訂正させていただく。大変申し訳ない。

問) 指定管理者だけでやるのではなく、県直営と合同で管理することに対して、課題やよかった点などあるのか。

答) 県が指定管理者と連携して管理をしているが、一つは、博物館法とか条例において、博物館、美術館、文学館も含めて、学芸員を置くこととなっており、その学芸員が学芸部門の展示をしている。また、教員も配置して博学連携という形で子供たちに普及啓発をしている。美術館と文学館それぞれに専門の学芸員、教員等がいて、そこで本来の業務をしながら、管理は一体的に公園も含めて指定管理者でやっており、相互に連携をして、それぞれの特色を出しながら、管理とか広報については一元的に指定管理のほうでやっており、効率的な管理・運営ができていると考えている。

問) 指定管理者がこの施設の管理をする上で、うまみというか、その辺はどうなのか。

答) こちらはミレーの作品を常設で見られるという非常に強みを持った美術館だと個人的にも考えているが、いつでもこのようなものが見られるというのは、ほかの都道府県立もしくは市町村立の美術館にはない強みであり、こういったところで広報活動や運営に携わるというのは、ほかにはできない経験だと思っている。ほかの美術館はどうしても、特別展とか企画展に人の流れが大きく左右される。もちろん、ここもそれでアップダウンはあるわけだが、ミレーがあるため、常設展だけの開催時でもある程度の来客が見込めるという強みをどう生かしていくのかというのは、うまみというのとはちょっと違うかもしれないが、私どもとしては非常に得難い経験をさせていただいていると考えている。

問) 美術館の来館者の県外からいらっしゃる方の割合というのはここ数年大体どれぐらいなのか。

答) 大体60%以上が県外で、例年大体同じぐらい来ている。

問) 来館者というのはどの辺りからいらっしゃる方が多いのか。

答) 首都圏の方が多。東京、神奈川といった辺りが多いというのが今のところの傾向である。

問) 観光事業に協力をされているとの話だが、宿泊をされているとか、日帰りで帰られているのか、あるいは、こういった事業をしながらどういった成果が得られているのか。

答) 私どもの広報活動で直接的に宿泊に直結するものはなかなか今は取れていないのが実情で、まずは美術館、文学館を使っていただく広報をしている。今のところは、宿泊は比率としては10%から20%ぐらいでそれほど高くない比率にはなっている。

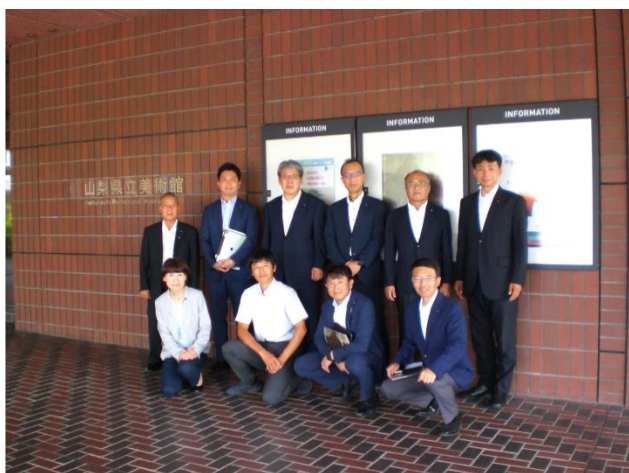
もう一つ、宿泊割引というのをやっていて、県内の宿泊施設に泊まっていたことが証明できると割引をすることで、宿泊に少しでも直結できるような取組を導入している。

問) 山梨県内の自治体と連携している取組で、10自治体に働きかけを行った結果、7市町村であるが、県下27自治体ある中で、地域限定という捉え方なのか。それとも山梨県全体に広めた結果、10自治体しか受け入れがなかったということか。

答) 自治体を絞ったというよりは、まずは近隣の甲府市を中心とした自治体からということで、27全部に働きかけをしたかったが、時間の関係などがあり、まずは近隣の10市町村からさせていただいたという流れになっていて、将来的には県内全域をカバーしていきたいとは考えている。

問) 美術品はミレーの絵もあって大変貴重な作品が多いが、海外ではいたずらをされる方がいると報道にもあった。作品に対する安全管理はどのようになっているのか。

答) 監視スタッフが必ず部屋におり、そこで気をつけるように、人の動きをよく見るようにという注意喚起している。今のところは幸いそういう動きをするような人が来たとは聞いていないが、我々でできることとすれば、大きな荷物はなるべく持って入らないように声かけはしている。コインロッカーを使う、荷物が大きければ我々が預かることで、基本的には物を持って歩かない、ほかのお客様の迷惑になるというところで声かけをしていく、地道にそういうことで防いでいくことしか今のところはないと考えている。



※山梨県立美術館南館講堂で説明、質疑を行った後、現地視察を行った。

3 (公財) 山梨県馬事振興センター

○調査内容

問) オリンピックも含めてこの3年間の中では増減があるが、とりわけ今後の経営を含めて、収益確保に向けてどのような対応をしていくのか。

答) いろいろな資材や物価が上がっているが、法人としては経費の削減の努力をしっかりとしているところである。収入の増加のためには、県と県馬術連盟等と連携をして、日本馬術連盟に対して、大規模な大会をぜひ山梨でやってほしいという勧誘の活動をしており、今週末、ここの場で延べ2,000人ぐらいがこの地を訪れる全日本ジュニア障害という大会が開催をされることになった。経費を削減しつつ、いろいろな大会や合宿を誘致する営業活動もしているところである。

問) 施設のほうは、国体の関係で宿泊場所にもなるという話で、青森国体が2年後にこちらで開催されるというのは承知しているが、今、静岡の御殿場の競技場がかなり人気があつて、そちらにお客さんが取られているというような話を過去に聞いた記憶がある。比較すると向こうのほうはかなり充実していると聞いているが、ここに何か足りないものをある程度把握しているのか。

答) 山梨県の馬術競技場のよさから話をすると、まずはクロスカントリーコースがあるということ。馬術には総合馬術、障害馬術、馬場馬術の3つがあり、総合ができるのは、今、休館している馬事公苑と、山梨と兵庫県にある三木だけである。となると、全日本総合はもう山梨でしかできないという状況で、ここを毎年お使いいただいている。

今、委員から御指摘があつた障害については、国体の競技種目でもあり、確かに御殿場は非常にライバルである。今、パリオリンピックのJOCの馬術競技の強化センターはうちがもらったが、ナショナルトレーニングセンターは御殿場が持っている、ライバル関係にはあるが、御殿場の夏と山梨の夏は気候が違うので、今までは御殿場や三木、山梨で2,000人が来るものを回してやっていた。ただ、ここ3年間は山梨ですべて開催をしていただいております、夏休みにやるジュニア大会は山梨が一番いいというお客様たちからの声がある。日馬連も今ここにきていただいているので、確かに御殿場はいろんな面でライバルだが、うちがうちのよさをしっかり出しながらいちに進めていきたいと思っている。

問) 経営改善するために大会誘致に力を入れていきたいという話だったが、令和4年度の実績を見ると22大会が行われたということだが、そのほかにはあとどのぐらいの大会があるのか。

答) 昨年度は22大会だったが、大きい大会だと、一昨年が大学生の大会で全日本学生馬術大会というのがあり、兵庫県の三木と、東と西で交代でやっている。あとは関東学生や全国乗馬クラブ振興会という、いろいろな乗馬クラブの人たちで組織する大会があつたり、お医者さんと歯医者さんの歯科医師乗馬大会など、大きい大会についての主催者については、こちらからぜひうちの馬術競技場をお使い願いたいと話をしていく。22大会とか、大会数について前後するのは、東でやったりこっちでやったりというのがあつて、たまたま東でやるときにはぜひ山梨でというような話をするので、ちょっと前後はする、そんな形になっている。

問) 中部横断自動車道北部区間が開通すると、全国から馬が輸送されてこの地に集まるということで、そういった観点から中部横断道自動車道の効果をどう捉えているか。

答) 南区間が平成29年開通だが、そこから静岡の方々からは非常に便がよくなったという話を聞いていて、静岡にヤマハの企業があるが、その方々の交流もあったりして、そういう方々の馬がここに来て競技をしていただくようなこともふえており、交通の便は、この施設、この地域の活性化のためにも非常に期待できる効果があると考えている。

問) 今までの誘致で具体的な課題を言われたことはあるのか。

答) これだから無理だとお断りされたことはまだ一度もない。それよりも、全国の大会というのは、ここを野球の甲子園のように、乗馬のメッカとしてずっと使っていただければいいのだが、それぞれの競技場もあるので、共存共栄しながら、特に兵庫県の三木についてはスポンサーがJRAであり、馬事公苑もJRAである。天下のJRAの大会を少しでもこっちに引っ張ってくるというのは、実は並大抵のことではないので、できるだけ努力をしているということで御理解いただければと思う。



※山梨県馬事振興センター本部棟で説明、質疑を行った後、現地視察を行った。